

## 新こなんSSNライフサポート4カ年プラン（セカンドステージ4カ年戦略）

平成15年度より、国の新障害者プランと県の新淡海障害者プランが開始される。十分ではないが数値目標の設定もされ、少なからず精神保健福祉サービスの充実に向けての「風」が吹いている。市町村においても昨年度より在宅福祉サービスの実施主体となり、事業が開始されている。また、今年度よりケアマネージメントの導入がはかられ、地域ニーズの掘り起こしとサービスの提供が進められる予定である。しかし、まだまだ地域には、対応できる施設やサービスが不足しており、その整備がかなり求められている。こうした「風」をよみ、この「風」に乗っていくことが、今必要となっている。

こなんSSNは、平成12年5月からこなんSSNライフサポート3カ年プランをもとに事業を展開してきた。そのプランの重点目標としてきた社会福祉法人設立と施設整備については、今年度、完全ではないが一応の目標に近づき、より強い活動基盤と拠点ができることになる。当然、今後のセカンドステージにおける事業計画が必要となる。

現在のこなんSSNの活動は、サロンを中心に活動を展開してきたが利用者の個々のニーズに対応していく中で就労へのニーズも多く、今後は個別支援の関わりを基本に、授産施設の機能分化を計り、就労支援体制の整備も行っていく必要がある。

また、地域生活の支援については、現作業所の中で、日常生活上の様々な問題への対応や余暇の支援まで、生活すべてに対応を行っている現状にあり、かなり無理を強いられている。早急に、地域交流事業やネットワーク体制で生活支援を行う地域生活支援センターの事業開始と施設の整備が必要となっている。そして、生活の場としてのグループホームについては、よりよい生活環境の整備と今後の利用希望者に対応していくために、公営住宅の転用を検討していく必要がある。

また、地域には施設やサービスが少なく実績経験もまだまだ浅いため、こなんSSNの関わりが精神保健福祉活動のモデルとなるように湖南地域以外での事業展開を進め、県内の社会復帰関連施設などのより一層のレベルアップを計っていくことも必要である。

このような必要性の中、こなんSSNの新ライフサポート4カ年プラン（セカンドステージ4カ年戦略）として下記の事業を進めていく。ただし、単独事業の展開でなく他機関などとの連携を基本姿勢として進めるため、このプランのコンセプトは「ネットワーク」とする。

1. 現作業所を小規模授産施設として事業認可を受ける（平成16年4月予定）。
2. 地域生活支援センターの事業認可（平成16年4月予定）、施設整備（平成16年度）を行う。

生活支援に向けたネットワーク体制の整備を基本とする。

3. グループホームの公営住宅への転用と女性利用者グループホームの整備を行う。
4. 障害者就業、生活支援センターの事業委託（平成16年度予定）受ける。
5. 県内初の福祉工場設立に向けての検討を進める。

国の見直しをみながら検討開始

6. 湖南地域以外における他団体との連携で事業開始を行う。

八日市市での共同作業所（小規模授産）の設置

大津市での地域生活支援センターの設置

7. 県内の社会復帰関連施設などのレベルアップのための組織化を進める。